

開拓魂の復活を待つ記念碑

福島県浪江町津島・沢先開拓

福島県浪江町津島（旧津島村）の沢先開拓は、阿武隈山系の日山（天王山と呼ばれる）と太平洋の間に位置し、標高約450mにある。浪江町の市街地から北西に20km離れている。

45年当時は津島村には300名以上が入植した。沢先地区は村の南側の低温多湿の山間部で、冬には1m以上の積雪があった。

入植と同時に住まいの心配があり、かやを使って掘っ立て小屋を作り、食料の心配では、朝明けきらない時より開墾した。

初めは食料難ということで、穀物や野菜の栽培が中心であったが、53、54年の連年の冷害により、酪農が福島県の開拓事業全体の象徴となり、福島県開拓連が酪農事業に積極的に取り組んでいった。牛乳の開拓系統共販体制が強化され、年々数量も伸びていった。

80年に入植35周年の開拓記念碑が建てられ、その15年後に50周年の碑が並んで建った。

11年3月11日の東日本大震災による福島原子力発電所事故で、浪江町全域が帰還困難区域となり、全戸避難となってしまった。

酪農などの畜産経営者は、家畜の処遇を決めてからの遅れた避難であった。

町をあげての懸命の努力で除染等復興の歩みを進め、段階的に避難指示解除の地区が増えてきた。

今年の3月31日に、津島を含む3ヵ所の特定復興再生拠点区域（復興拠点）が避難指示解除となったが、津島地域は約153ha（1・6%）しか解除とならず、沢先開拓など多くの開拓地が、帰還困難区域のままだった。幹線道路は通行できるが、路地に入ろうとすると通行止めの柵がある。

今後も、帰還希望者は申請して、除染作業を依頼していくこととなっている。

これまで、どんな逆境も乗り越えてきた開拓魂を見つめてきた2代の碑が、静かに開拓者たちの帰りを待っている。

福島県浪江町津島・沢先開拓

- ①調査日 令和6年7月23日
- ②所在 福島県双葉郡浪江町南津島
- ③地区の沿革 不明
- ④設置年月日 ア 昭和55年10月11日
イ 不明
- ⑤設置者 ア 沢先開拓記念碑建設委員
イ 50周年記念役員
- ⑥碑名 ア 「開拓碑」
イ 「沢先開拓入植50周年記念碑」
- ⑦碑文(表面) ア 昭和20年戦は終わった。緊急開拓の発足とともに私たちはここ天王山国有林の一角沢先地内に入植する。爾来30有余年は夢のように過ぎた。
笹小屋に住み大石を転じ木の根っこ取りくみ昼夜の別なく一鍬一鍬と開墾を続ける。●●●収穫物は少なく幾度か挫折感に迷う。昭和27年土地の売り渡しを受けて自分たちの土地となる。されど苦難は続く。同志相励まし相助け情熱を燃やしてひたすら開拓の道を歩む。
昭和34年待ちに待った電気が導入され、各戸に電燈がともる。やがて荒地は耕され草地は拓け今や農用地60余町歩林地60町に及ぶ。大型畜舎鶏舎が点在し、乳を搾り仔牛は生まれ鶏卵は大量に生産され、ここに永住の地を築く。
嗚呼、だれが入植当時今日を想像したであろうか。この姿を見ることもなく他界された同志各位の冥福を祈り不撓不屈の拓魂を子々孫々に伝え豊かな郷土の発展を祈念し、今改めて30有余年の苦闘を記念するため茲に開拓碑を建立する。
昭和55年10月11日
沢先開拓記念碑建設委員撰
福島県議会議員立原太吉書
※下段に「沢先開拓入植者」として指名が刻まれている。
イ 沢先開拓入植 五十周年記念碑
衆議院議員 田中直紀 書
- ⑧碑文(裏面) ア なし
イ 50周年記念役員15名の氏名が刻まれている。
贈 三瓶石材 三瓶 明雄
- ⑨現在の状況 「開拓碑」と「沢先開拓入植50周年記念碑」が横並びに建立されている。福島ダッシュ村の近く。

⑩写 真



「ア．開拓碑」と「イ．沢先開拓入植 50 周年記念碑」



(表)



(表)



(裏)